

ベトナム高等教育の戦略：変化と改革

Pham Lan Huong

(ヴァンラン大学教授)

1000年以上にわたって中華帝国によって支配された後、ベトナムは938年に独立国となり、その教育は封建王朝の下で発展してきた。1076年に王立カレッジが創設され、その後1253年には国家教育機関が設置された。王立カレッジは、東南アジアにおいて最初のカレッジであった。

現在までのところ、ベトナムには分校を含めて200校以上の高等教育機関が存在し、就学者の増加と人材養成がベトナム高等教育の目的となっている。

1986年以降、ベトナムでは社会経済政策の大きな変化、すなわち中央計画経済から市場経済への移行が起こり、現在は移行経済期と分類される状況にある。ベトナムの年間平均GDPは1991年から2000年にかけて7.4%増大し、その増加分のうち約60-65%は労働力の寄与によるものであった。ベトナムは多くの成功を収めたが、それは特に高等教育拡大において著しい。ベトナムは安定を基盤に発展することに努めており、高等教育は社会・経済に対する適切な能力を増大させつつある。

ドイモイ以降のベトナム高等教育の改革状況

経済改革に合わせて、教育政策は、標準化・現代化・社会化の諸動向のなかで変化している。教育政策は多様な分野と専門職に役立つなければならない。

近年、ベトナム高等教育は顕著な拡大を見せている。過去10年の間に、1万人当りの学生数は6.1倍に増加し、2000年には1万人当たり117人となった。高等教育を修了した労働者数は熟練労働者の21.7%を占めているが、それは全労働者の3.4%に過ぎない。全体の教育費は1996年の7兆1,000億VND(国家予算の10.08%)から、2000年には14兆1,800億VND(同15%)に増加した。教育予算は2005年には18%、2010年には22%に増加するものと見られる。ベトナム政府は教育振興に力を入れているものの、国家予算の不足によって限界も見られる。

大学の状況

入学生の質

これまでのところ入学者数は教育訓練省によって決定されている。こうした入学枠に沿って、政府

の補助金が与えられている。しかし、それは基準を欠いており、それゆえに政府は大学に対して権限を行使できる。ドイモイ政策が進められるにつれ、柔軟性を高めるため新たな入学メカニズムが開発されつつある。

カリキュラム及びコース

ベトナムの高等教育カリキュラムは、様々な国で教育を受けた教授たちによって策定されている。プログラムやカリキュラムには十分な理論的背景が必要である。それに対する投資は依然として不足している。

教員

全般的に、ここ数年のうちには大学教員の不足が深刻化すると見られる。教員数は増加してきているものの、近年の学生数の増大に追いつくには不十分である。質的にも量的にも教員の育成が必要である。

教授・学習法

教授法は、依然として時代遅れであり、理論面に重点が置かれ受動的であるが、現在少しずつ変化している。

教育施設

十分な教育施設・設備及び質の高い教育空間(教室)が保証されていないのは、現在のベトナムにとって困難な課題である。

教育の質的評価

教育の質的評価は、公的評価と世論の両面から考えられている。しかし、学生の教育の質を評価するための決まった基準は存在しない。

科学研究

科学研究は、ベトナム大学が直面している二つの主要な課題の一つであるが、施設や実験室が不足しているために教員が研究を行うことは容易ではない。国家助成(教育に対しては3.6%)の不足も深刻であり、大学プロジェクトの30-40%が日々の運営費に回されている。大学と企業との関係

もまだ密接なものにはなっていない。

高等教育の国際関係

過去 8 年間で、約 1 万人の学生が自費就学もしくは半自費就学に志願した。1987-2000 年には、1 万 7,000 人の学生が国家補助及び国際支援を得て海外に留学している。それは、ベトナム大学と外国の機関とを「サンドイッチ」状に繋ぐものである。現在、世界の大学との間には多くの協カプロジェクトが存在している。

ネットワークを通じたの海外留学

海外留学は世界における教育発展の趨勢であり、ベトナムにおいてもあてはまる。しかしながら、重要な点は施設の貧困さである。それゆえ、ネットワークによる遠隔教育は限定されている。

大学院教育

2002 年現在、4,279 人の Ph.D.、38 人の自然科学博士号、そして約 1 万人の修士号が授与されている。しかし、大学院教育の問題は、教科書の質、教授法、コースの期間、研究との関係、管理運営といった形で存在している。

私立高等教育システム

これは、「社会化」政策以後に設立された新しいシステムであり、初期段階で多くの成果が得られたものの、解決の必要な問題も存在している。

2020 年に向けてのベトナム高等教育の戦略

全般的目標

大学ネットワークの構築を視野に、大学の規模拡大が強調されつつある。1 万人当りの学生比率は、2000 年の 117 人から 2005 年の 140 人へ、さらに 2020 年には 300 人へと増加すると予測される。また、2010 年における高等教育規模は、学部生が 180 万人、大学院生が 3 万 8,000 人、Ph.D. 学生が 1 万 5,000 人になるとされる。年平均の規模拡大率は 5% である。その結果、全労働人口に占める学部卒の労働人口は 2010 年には 4% になると考えられる。

課題

今後の課題としては、質と量の問題、研究開発の実施能力、官僚制的及び法的硬直性、高等教育と労働市場との均衡、在外ベトナム人の貢献、頭脳流出などがある。

戦略的解決

1. 教育経営の革新
2. 財源の増大
3. 国際協力の効率性向上
4. 科学研究の発展とその応用
5. 教員の育成
6. 教育内容と教授法の改革
7. インフラの整備

結論

ベトナムは大きな可能性を秘めた国家である。東南アジアで最初の大学を創設し、教育について長い歴史的な遺産を有している。ベトナム高等教育は海外の影響を受けつつも、ベトナム独自の高等教育を構築しようという大きな意志をもっている。豊富に供給される安価な単純労働者に依存し過ぎているベトナム経済の危険性や限界は十分に認知されている。過去 10 年間、ベトナム高等教育は新たな自由経済の需要に対応して顕著な拡大を見せてきた。依然として多くの課題が残るものの、世界の友人達の協力と支援を得て、ベトナム高等教育は必ずや急速に発展し、世界の高等教育の仲間入りを果たすであろう。